

呼吸器外科

1. 概要

心臓と食道、乳がんを除く胸部疾患を対象としている。主対象である肺癌は、死因の第1位で増加の一途をたどっている。ヘビースモーカーの多かった団塊の世代が、肺癌好発年齢の中心を占め、今後しばらく減少する気配は見られない。

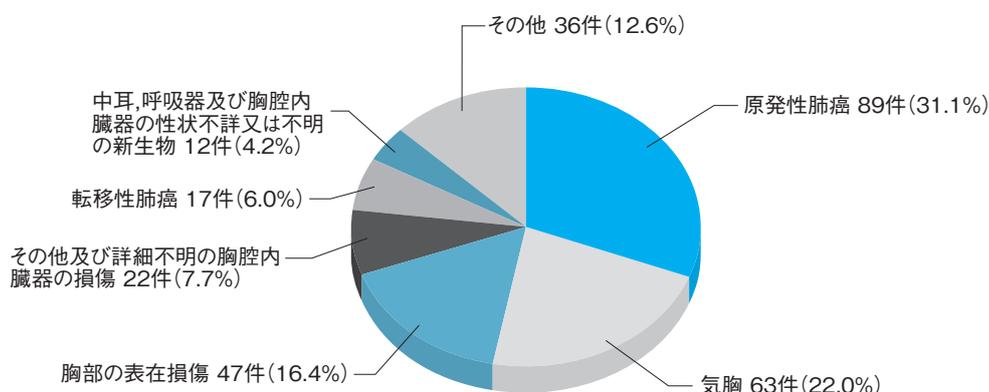
近年では胸腔鏡を用いて開胸創をより小さく、手術浸潤を軽減することで、標準的な肺癌手術でも、手術前日の入院から退院まで5から7日間の治療が可能となっている。残念ながら、定期健診を受けずに進行癌となってから来院されるケースもあり、この場合はすでにリンパ節や他臓器に転移していることも多く、再発の危険が増すばかりか抗癌剤投与や放射線治療の追加が必要となり、経済面や治療時間においても負担が大きくなる。したがって早期発見のため、無症状のうちに受ける住民健診等による定期的なスクリーニングが極めて重要である。

毎週定期的に、呼吸器内科・放射線科と合同カンファレンスを行って、個々の症例に関して治療方針を検討しており、症例ごと病状に適した治療が行えるよう心がけている。

(部長 成田 久仁夫)

2. 新規登録疾患

総数：286件



疾患名	主となるICD-10病名	件数(件)	ICD-10
原発性肺癌	気管支及び肺の悪性新生物，気管支又は肺，部位不明	87	C349
気胸	その他の自然気胸	34	J931
	気胸，詳細不明	18	J939
胸部の表在損傷	胸部の挫傷	47	S202
その他及び詳細不明の胸腔内臓器の損傷	外傷性気胸	6	S270
	外傷性血気胸	6	S272
転移性肺癌	肺の続発性悪性新生物	17	C780
中耳，呼吸器及び胸腔内臓器の性状不詳又は不明の新生物	中耳，呼吸器及び胸腔内臓器の性状不詳又は不明の新生物，縦隔	12	D383

3. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数	2,683人	年間外来新患者数	329人
年間入院患者数	1,918人	年間入院新患者数	196人

学会発表（医局）

<呼吸器外科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	開催地	発表年月日	医師 区分
1	ドレナージと内腔焼灼にて 症状コントロールが可能で あった気管支原性嚢胞の1例	筆頭演者	鈴木 晴子	第34回日本呼吸器外科 学会総会	福岡市	2017/5/18	
2	硬膜外麻酔併用全身麻酔下 で肺区域切除後に発症した 脊髄梗塞の1例	筆頭演者	親松 裕典	第34回日本呼吸器外科 学会総会	福岡市	2017/5/18	
3	肺炎を繰り返した中葉気管 支閉鎖症の1手術例	筆頭演者	親松 裕典	第40回日本呼吸器内視 鏡学会学術集会	長崎市	2017/6/10	

論文・著書(医局)

<呼吸器外科>

No.	題 名	区分	氏名	雑 誌 名	医師 区分
1	食道胃接合部癌切除術後に発症した孤立性肺転移の1切除例	筆頭著者	親松 裕典	肺癌. 2017; 57: 325-329.	
2	開胸術後におけるアセトアミノフェン定時点滴注入併用フェンタニル持続静脈内注射による鎮痛効果の検討	筆頭著者	親松 裕典	日呼外会誌. 2017; 31: 586-592.	